

# 琉球大学学術リポジトリ

## [資料]沖縄におけるマラリア, フィラリア病 に関する文献及び資料蒐集 I

メタデータ	言語: 出版者: 琉球大学医学部 公開日: 2010-06-30 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 平良, 一彦, 宮城, 重二, 川崎, 悦子, 江下, 優樹, 砂川, 恵徹, 原, 実 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/20.500.12000/0002015730">http://hdl.handle.net/20.500.12000/0002015730</a>

## 沖縄におけるマラリア・フィラリア病 に関する文献及び資料蒐集 I

平良 一彦 宮城 重二 川崎 悦子 江下 優樹\*  
砂川 恵徹\*\* 原 実\*\*

琉球大学医学部保健管理学教室

\* 帝京大学医学部寄生虫学教室

\*\* 沖縄県環境保健部

### 調査計画

亜熱帯地方に属する琉球列島は、かつて、マラリア・フィラリア病の濃厚な浸淫地であった。

現在では両疾病とも科学の進歩と住民の熱意に支えられた組織的な撲滅対策が功を奏し、時折、輸入マラリアの例を見るも、本地域においてはもはや発生が見られない。このように長年にわたり列島住民を苦しめてきた両疾病に関しては古くから内外の多くの研究者が調査研究に従事して、疫学的研究、実験的研究、臨床報告など膨大な報告が残されている。しかし今日ではこれらの文献は入手し難い現状にある。

マラリア防遏作業はすでに1922年から始まっていた。それから35年を経て、DDTの屋内残留噴霧法による対策が1957年に始まって顕著な成果をあげ、4年後には、マラリアは姿を消した。また、琉球列島からフィラリア病の新発生が見られなくなったのは、明らかに1965年から開始された組織的なフィラリア病の撲滅対策の成功によるものである。これらの資料は現在、生の素資料として現地の保健所に残されているが、時の推移と共に散逸の恐れがある。少なくとも関係者が現存している間に蒐集し、整理し、成文化する必要がある。

過去における沖縄のマラリア・フィラリア病の浸淫状況や、その撲滅対策の失敗や成功の実態を明確に把握し記録することは、沖縄の公衆衛生事業の成果を顕彰することになる。それとともに、沖縄が国際性豊かで、南に開かれた発

展を指向すると、必然的に輸入マラリアの問題や、フィラリア病の再燃も念頭に置かねばならない。そのような意味でも後輩に記録を残して参考に資する必要があるが、それはつぶさに今なおその流行に悩む他の国々の良き参考ともなるであろう。

このような意味で、琉球列島におけるマラリア・フィラリア病に関するこれまでの資料・文献等の蒐集を行った。

### 方 法

#### 1. 文献蒐集

マラリア・フィラリア病研究は、正攻法の常石を踏んで、まずあらゆる文献を集めることにはじまった。それには、医学中央雑誌の初巻からはじめて、少しでも沖縄のマラリア・フィラリア病に関する記事のある論文をカードにとることが最もてっとり早い。過去の文献のなかでフィラリア病に関するとくに貴重な資料は、1911年に峯直次郎が軍医団雑誌に発表した「沖縄におけるフィラリア病伝播の状況報告」であるがその後、同病に関する論文が多くの著者によってほぼ毎年報告されている。その数は、明治時代9編、大正時代17編、昭和前期(戦前)22編、昭和後期(戦後)182編で合計230編蒐集した。また、マラリア関係文献も同じような方法で蒐集したが吉野高善、大浜信賢等の貴重な文献をはじめ、古くは台湾医師会誌(1919)所載羽島重郎「八重山地方のマラリア」や最近のUSCAR

資料等も入手し、合計114編を蒐集した。これらの文献は、大学・研究所などの図書館を通じてほぼ入手することができた。以上の資料を年代順にまた、著者名別に整理したのが本『文献目録』である。今後洩れた資料やその後関係機関と連絡して入手予定の資料を逐次追補したいと考えている。

## 2. 現地調査

琉球列島におけるマラリア・フィラリア病撲滅事業は、宮古群島・八重山群島・沖縄群島と群島別に大別されて進められていった。筆者らは、まずこれまでに得られた各種文献を頼りに、それぞれの地域の実態や撲滅法、成果等を年代順にまとめたうえで、各保健所、関係機関を訪問し、当該機関に現存する各種データを蒐集し、分析・整理した。撲滅事業は各群島とも基本的には同様な方法で進められているが、地域の特殊性により、それぞれ異なった対策や方法も加味されている。したがって現地調査をとくに重視した。

今後の作業としては、蒐集されたこれらの資料をもとにぜひ綜説をまとめねばならないと考えるが、その際には実際に撲滅事業に携わった各保健所長や衛生課長、その他関係者の方々の体験談や意見も伺い、全貌を的確にまとめるようにしたい。

またマラリア・フィラリア病と媒介蚊の関係から流行地の下水道、排水工事、土地改良、生活水準、GNP、ならびに一般公衆衛生の推進、家畜衛生の進展具合等も考慮に入れて調査する必要がある。今後の課題としてとりくみたい。

今回はとくに医学中央雑誌等に載らない現地の“生データ”を多数蒐集することができたが、これは各保健所長や予防医学協会ならびに県予防課、公害衛生研究所の方々の御協力のおかげである。

この文献集の作成にあたり、御指導下さった富山医科薬科大学の佐々学学長ならびに琉球大学医学部保健管理学教室の照屋寛善教授に深く感謝申し上げます。

本調査研究の一部は昭和57年度および58年度沖縄県指定医療研究費の補助を得た。

## マラリア関係文献 (アルファベット順)

- 1) 阿部康男：我国に於けるマラリアとその防遏の問題，臨床医学28 (10)：1232-1239 (1940)
- 2) 穴沢顕治：台湾産アノフェレスの種類のマラリア原虫感染に関する研究，第四報，台湾におけるマラリアの流行学的研究，その2，台湾医会誌 (319)：609-632 (1931)
- 3) 青山俊雄：マラリアとの苦闘10年，保健所30周年記念誌，沖縄戦後の保健所のあゆみ，179-181，(1981)
- 4) 安里龍二：輸入される寄生虫 I，マラリア，沖縄の寄生虫病，正しい検査と集団駆虫をしよう，1980年1月沖縄県予防課発行 (1980)
- 5) 安里龍二，長谷川英男：沖縄における輸入マラリアの現状，寄生虫学雑誌，Vol. 30 (6) 527-531 (1981)
- 6) Bohart, R. M. : A survey of the mosquitoes of the southern Ryukyus., Mosquito News. 19: 194-197 (1959)
- 7) 千葉徳爾：シナ嶺南地方の風土病「瘧疾」の地理学的考察，地理学評論，40 (12)：17-30 (1967)
- 8) 千葉徳爾：八重山に於けるマラリアと住民，地理学評論，45 (7)：461-474 (1972)
- 9) 陳 萬益：マラリア撲滅会議，(1962)
- 10) Ebisawa, I. and Tanaka, H. : Malaria in Okinawa prefecture, 375-386. Animals of medical importance in the Nansei Islands in Japan. edited by Sasa, M; Takahasi, H; Kano, R. and Tanaka, H., Shinjuku Shobo, Tokyo (1977)
- 11) 江下優樹：琉球列島のマラリアとその撲滅対策の史的考察，環境衛生，29 (4)：26-34 (1982)
- 12) 福嶺紀仁，加納六郎，熊田信夫，金子清俊，久郷，山本久，田中康一：琉球宮古島の医動物学的調査，予報，お茶の水医学雑誌，4 (6)：852-853 (1956)
- 13) 福嶺紀仁：琉球宮古島の医動物学的調査，第IV報，蚊及び蚊の媒介する疾病について，お茶の

- 水医学雑誌, 7 (8): 2168-2176 (1959)
- 14) 福地清行: 1946年国頭地方に流行せしMalariaの調査状況, 第4回 (1973) 沖縄県公衆衛生学会総会記録集230-235 (1973)
- 15) 波照間用矩: 蚊帳も無用の長物に, 保健所30周年記念誌, 沖縄戦後の保健所のあゆみ (1981)
- 16) 羽鳥重郎: 八重山地方のマラリア, 台湾医学雑誌, (205): 1054-1063 (1919)
- 17) 比嘉政昭: 沖縄国際海洋博でのマラリア防疫の実情, 日本熱帯医学会雑誌, 5 (2): 164-165 (1977)
- 18) 堀栄太郎: 沖縄の寄生虫病, 日本熱帯医学会協会, 14pp (1970)
- 19) ハンター, G. W.; リッチ, L. S.; パン, C. and リン, S.: 極東に於ける寄生虫学的研究, XI. 沖縄 (琉球諸島) の疫学的調査, 日本兵站司令部報告 (3): 72pp (1951)
- 20) 稲福盛輝: 医学資料目録編, 医動物 (2) マラリア, 沖縄の医学, 47-48, (1976)
- 21) 伊集不二男: 大正10年, はじめてマラリア班設置, 保健所30周年記念誌, 沖縄戦後の保健所のあゆみ, 193-194, (1981)
- 22) 石垣用中, 宮良高芳, 加納六郎, 熊田信夫, 久郷準, 森川達二, 山本久, 浅沼靖, 中川宏: 八重山群島の蚊について, 衛生動物 9 (4): 311 (1958)
- 23) 石原昌家: もうひとつの沖縄戦—マラリア他獄の波照間島—, ひるぎ社発行 (1983)
- 24) Irvine H. Marshall, Colonel M.C.: INSECT AND RODENT CONTROL AND MALARIA ERADICATION IN THE RYUKYU ISLANDS. (1959)
- 25) 加納六郎: 沖縄八重山出張報告, お茶の水医学雑誌, 2 (6): 453 (1954)
- 26) 加納六郎: おきなわ採虫行, 新昆虫, 8 (5): 21-24 (1955)
- 27) 加納六郎: 琉球八重山列島の衛生害虫と風土記, 環境衛生, 4 (7): 12-17 (1957)
- 28) 川満彦一: マラリア防退事業記念切手発行の趣旨について (1961)
- 29) ケネス, S. ヒッチ中佐: 世界保健機構(WHO) 記念切手について (1961)
- 30) 岸本高男: 琉球の蚊と疾病, 新潟大学医学部熱帯医学研究会 8月, 112-119 (1966)
- 31) 岸本高男, 比嘉ヨシ子: 蚊の媒介する疾病マラリア症, そ族昆虫駆除指導書第IV集, 沖縄の蚊, 1981年1月発行 (1981)
- 32) 国吉真英: 沖縄本島久志初等学校学童マラリア原虫検査成績について, 第1回沖縄公衆衛生学会記録集93-98 (1970)
- 33) 国吉真英: マラリアに関する文献目録 (1962-1981) (1981)
- 34) 黒島直規: マラリア撲滅事業, 八重山群島における変遷とその成績, 環境衛生, (4): 1-6 (1960)
- 35) 黒島直規: 八重山群島のマラリア撲滅の成果, 環境衛生 (1960)
- 36) 黒島直規: 忘却の彼方へ消えゆく「マラリア」, 保健所10年のあゆみ (琉球政府厚生局公衆衛生課編) (1962)
- 37) 黒島直規: マラリアとのたたかい—43年の記録—, 145pp. 八島印刷, 沖縄 (1976)
- 38) Leonard D. Heaton: MEDICAL DEPARTMENT. UNITED STATES ARMY PREVENTIVE MEDICINE IN WORLD WAR II. Volume VI. Malaria, OFFICE OF THE SURGEON GENERAL DEPARTMENT OF THE ARMY WASHINGTON. D.C. 1963 (1963)
- 39) M.A. Farid: EVALUATION REPORT ON THE MAINTENANCE PHASE OF MALARIA ERADICATION IN THE RYUKYU ISLANDS. 23 May 3 June. 1969, WPR/MAL/FR/180. 24 July. 1969 (1969)
- 40) 前里充宏: 驚異的な医学の進歩, 保健所30周年記念誌, 沖縄戦後の保健所のあゆみ (1981)
- 41) 牧野 清: マラリアの北進民族帯來說, 保健所30周年記念誌, 沖縄戦後の保健所のあゆみ (1981)
- 42) 三浦守治: 沖縄縣に於ける風土病の状況(一), 東京医学会雑誌 3 (18): 1066-1072, (1889)
- 43) 三浦守治: 沖縄縣下八重山島に於ける風土病の状況(二), 東京医学会雑誌 3 (19): 1105-1109, (1890)
- 44) MIYAGI. I. and Toma. T: A NEW RECORD

- FOR AEADES ( NEOMELANICONION )  
LINEATOPENNIS ( LUDLOW ) IN THE  
RYUKYU ISLANDS, MOSQUITO NEWS  
Vol. 37 (1) (1977)
- 45) 宮城一郎：沖縄県とくに八重山地方におけるマ  
ラリア伝搬蚊の消長，日熱医学会誌，5 ( 2 ) :  
164 (1977)
- 46) 宮城一郎，木村弘：最近多発する傾向にある石  
垣島のマラリア蚊 *Anopheles minimus* につい  
て，衛生動物28 : 93 (1977)
- 47) 宮城一郎，当間孝子：琉球産ハマダラカ (*A-*  
*nopheles*) の最近の発生状況について，日熱医  
学会誌6 ( 2 ) : 98 (1978)
- 48) 宮城一郎：コガタハマダラカの発生状況，公衆  
衛生情報Vol. 8 ( 5 ) (1978)
- 49) 宮良長詳：私信 (沖縄人連盟，伊波普猷氏宛)  
1946)
- 50) 森俊介，竹本泰一郎：マラリアはどうなって  
いるか，保健の科学，21 ( 4 ) : 263-267 (1979)
- 51) 森下 薫：DDT 残留噴霧の効力—マラリア防遏  
に於ける新戦術—，衛生動物，7 : 1-8 (1956)
- 52) 森下 薫：WHO 主催第 2 回アジアマラリア会議  
に出席して及比島台湾沖縄管見談 (抄)，掖济会  
医学誌，4 ( 2 ) : 20-22 (1956)
- 53) 森下 薫：日本における残留マラリア問題，日  
本医事新報 (1845) : 10-16 (1959)
- 54) 森下 薫：マラリア原虫の生物学及び疫学に関  
する研究，日本における寄生虫学の研究Ⅲ，森  
下薫編，医歯薬出版株式会社，東京 (587) pp  
45-111 (1963)
- 55) 森下 薫：マラリアの疫学と予防 台湾に於け  
る日本統治時代の記録と研究，菊屋書房，(1976)
- 56) 諸見里道浩：マラリアの悲劇 波照間島，沖縄  
タイムス，1982，6月21日～6月26日掲載(1982)
- 57) 名護保健所：1946年国頭地方に流行せん Mala-  
ria の調査状況，(1946)
- 58) 中林敏夫，本村一郎，宮城一郎，宮田彬，常多  
勝己，御厨芳徳：フィリピンのマラリア—長崎  
大学・フィリピン・マラリア調査隊報告—1969  
年11月～1970年3月，長崎大学熱帯医学研究所  
(1970)
- 59) 中林敏夫，大友弘士，海老沢功，石崎達：輸入  
マラリアの現状，公衆衛生情報5 ( 9 ) : 1-  
4 (1975)
- 60) 中林敏夫：国内マラリア発生の現状，日熱医会  
誌5 ( 2 ) : 163 (1977)
- 61) 仲地哲夫：強制疎開とマラリア，波照間島調査  
報告書 (地域研究シリーズNo.3) 89-93，沖縄  
国際大学南島文化研究所 (1982)
- 62) 仲宗根栄：西表島蚊属分布調査報告 (1941)
- 63) 中谷基，田口長治郎：タツミノウの研究，日  
本公衆保健協会，8 ( 9 ) : 539-548 (1932)
- 64) 日本熱帯医学会：熱帯医学研究会報，第1巻～  
7巻索引，熱帯医学会報，7 ( 2 ) : 59-100 (1966)
- 65) 沖縄群島厚生部：衛生統計 (1950)
- 66) 沖縄県公衆衛生協会・沖縄県医師会：マラリア  
終えん記念 (マラリア終えん記念第10回沖縄公  
衆衛生大会・学会)，第10回沖縄県公衆衛生大会  
学会要綱，(1978)
- 67) 沖縄タイムス：まだあるマラリア—八重山調査  
からウィラー博士帰る—，沖縄タイムス1957年  
10月1日 (1957)
- 68) 大浜信賢：八島山に於けるマラリアの流行学的  
研究，八重山民政府衛生部業績，第4号(1947)
- 69) 大浜信賢：八重山のマラリア撲滅，初版，信毎  
書籍印刷，東京 (1968)
- 70) 大嶺経勝，宮良高芳：沖縄における主要感染性  
疾患の戦後における消長—マラリア—，第16回  
日本熱帯医学会総会 (1974)
- 71) 大嶺経勝：全建物にDDT 散布，保健所30周年記  
念誌，沖縄戦後の保健所のあゆみ182-185  
(1981)
- 72) 大友弘士，中林敏夫，海老沢功，石崎達：1975  
年の国内マラリア発生状況，公衆衛生状報，6  
(11) : 40-45 (1976)
- 73) 大塚 任，加納六郎：沖縄より帰りて，お茶の  
水医学雑誌，4 ( 1 ) : 104 (1956)
- 74) 大鶴正満：日本におけるマラリア研究の近況に  
ついて，新潟医会誌，71 (10) : 947-950 (1957)
- 75) 大鶴正満：わが国における第二次世界大戦によ  
る輸入マラリアが土着性とならなかった理由に  
ついて，医学の動向，22 : 107-138 (1958)
- 76) 大鶴正満：八重山群島の戦後のマラリアについ  
て，日本医事新報 (2659) : 67-69 (1975)

- 77) 大鶴正満：輸入マラリア症，日本熱帯医学会誌，5：9-14（1977）
- 78) 大鶴正満：我が国のマラリア—主として第2次世界大戦後の事情—，第10回沖縄県公衆衛生学会報告，142-148（1978）
- 79) 大鶴正満：マラリア，70-78，臨床寄生虫学，南江堂，東京，（1978）
- 80) 崎山 毅：マラリアの赤外型異変，保健所十年のあゆみ，琉球政府厚生局公衆衛生課編（1962）
- 81) 佐々 学：Dengue熱，マラリアと其予防，伝染病を媒介する鼠族昆虫撲滅指針，総合医学2回特別号：49（1946）
- 82) 佐々 学：熱帯への郷愁，新宿書房，238pp（1977）
- 83) 佐藤八郎，尾辻義人，中島哲：マラリア，176-196，新内科学大系第55巻，（感染症Ⅳ），吉利和他6名，中山書店，東京，（1975）
- 84) 沢田藤一郎：戦後マラリア，日本内科学会誌38：1-14（1949）
- 85) 下地恵俊：1971年8月以降宮古地区に侵入したマラリアについて，第3回（1972）沖縄県公衆衛生学会総会記録集69-74（1972）
- 86) 下地恵俊：昭和34年以降発生した発生ゼロ効果あげたマラリア作戦，保健所30周年記念誌，沖縄戦後の保健所のあゆみ（1981）
- 87) 下里泰徳：宮古島のマラリア防遏事業沿革，保健所10周年記念誌，保健所のあゆみ，（1962）
- 88) 下里泰徳：宮古島に於けるマラリア経過報告，第4回（1973）沖縄県公衆衛生学会記録集145-149（1973）
- 89) 下里泰徳：マラリア撲滅までの長い苦闘，保健所30周年記念誌，沖縄戦後の保健所のあゆみ（1981）
- 90) 城間盛吉：沖縄本島に於ける蚊族分布状況について，（1960）
- 91) 城間盛吉：沖縄本島那覇市において検出した四日熱マラリア原虫の1例報告について，日本衛生検査技師会雑誌14（7）：59-61
- 92) 鈴木 博，神田錬蔵，須階二郎：輸入マラリア4例に共通してみられた臨床検査成績とシナハマダラカによる媒介可能性の検討，日熱医学会誌，6（2）：109-110，（1977）
- 93) 高崎佐太郎：マラリアとDengue（講演），実験医報30年（2）：68，（1943）
- 94) 田中 寛：マラリアを撲滅した宮古島，環境衛生，6（11）：6-10，（1959）
- 95) 田中 寛，熊田信夫，福嶺紀仁，川満彦一，伊是名貴信，城間祥行：過去30年に於ける琉球宮古島のマラリアの変遷，その疫学と防遏，お茶の水医学雑誌，7（4）：777-786，（1959）
- 96) 田中 寛，熊田信夫，福嶺紀仁，川満彦一，徳嶺久光，伊集朝成：琉球宮古島における寄生線虫類の調査，公衆衛生，23（8）：523-527，（1959）
- 97) 照屋寛善：沖縄における主要感染性疾患の戦後における消長—戦後沖縄の医療年表—，第16回日本熱帯医学会総会，（1974）
- 98) 照屋寛善：沖縄における主要感染性疾患の戦後における消長—沖縄の医療年表—，沖縄県公衆衛生研究所報，第9号：175-217（1976）
- 99) 照屋寛善，宮城重二，平良一彦：戦後沖縄の保健医療行政の推移とその展開（第2報）疾病・死因構造の変遷を中心として，民族衛生48巻3号：108-115（1982）
- 100) 浦崎 純：作戦非情—マラリアの待つ死の避難行—，“死のエメラルドの海”，八重山群島守備隊始末記，111-154，沖縄月刊社（1970）
- 101) Wilber G. Downs: Malaria on Okinawa, Bulletin of the U.S Army Medical Department 9(8)652-655 (1949)
- 102) World Health Organization: FOURTH ASIAN MALARIA CONFERENCE, 27 September- 3 October 1962. Manila Phillines. (1962)
- 103) World Health Organization: Report of the WHO Evaluation Team on Malaria Eradication in Ryukyu Islands., INTEGRATED MOSQUITO CONTROL METHODOLOGIES. Volumel. (1965)
- 104) 八重山保健所：八重山群島のマラリア撲滅の成果，9pp（1962）
- 105) 八重山保健所：マラリア撲滅事業の概況，保健所10年のあゆみ（琉球政府厚生局公衆衛生課編）（1962）

- 106) 八重山保健所：八重山群島のマラリア撲滅事業の沿革と其の成績に就て，1965年3月（1965）
- 107) 横川 定，森下 薫，横川定雄：マラリア，138-148人体寄生虫学提要，第15版，（1976）
- 108) 吉田朝啓：沖縄の風土病，公衆衛生，35（2）：20-23（1971）
- 109) 吉田朝啓：琉球列島マラリア対策歴史年表（未完）第3回（1972）沖縄公衆衛生学会総会記録集65-68
- 110) 吉田朝啓，国吉真英：沖縄におけるマラリア流行の終焉と防圧上の問題点，熱帯，7（1）：35-36（1972）
- 111) 吉田朝啓：八重山群島のマラリア遂に絶滅，環境衛生，22（1）：26-30（1975）
- 112) 吉田幸雄：マラリア，40-52，図説人体寄生虫学，南山堂，東京，（1977）
- 113) 吉野高善：南部琉球八重山群島のマラリアに就いて，鹿児島医学雑誌，29（5/6）（1956）
- 114) 吉野高善：ふる里と共に，金剛出版，東京，（非売品），（1967）
- の史的考察，環境衛生29（3）：14-22（1982）
- 9) 福島英雄：フィラリア症：新内科学大系第55巻（感染症Ⅳ），吉利 和也監修，325-364，中山書店，東京（1975）
- 10) 福嶺紀仁，加納六郎，熊田信夫，金子清俊，久郷，山本 久，田中康一：琉球宮古島の医動物学的調査，予報，お茶の水医学雑誌4（6）：852-853（1956）
- 11) 藤井静英：沖縄県下に於ける小児糸状虫症に就て（大正4年日本小児科学会第20回総会演説抄録）：児科誌179：413，（1915）
- 12) 藤井静英：沖縄県下に於ける小児糸状虫症，統計的並に臨床的観察（附象皮病），児科誌187：1017-1074，（1915）
- 13) 藤井静英：沖縄県下に於ける小児糸状虫病統計的並臨場的観察（附象皮病）（其2），児科誌188：9-46，（1916）
- 14) 藤井静英，比嘉賀善：沖縄県下に於ける象皮病最小部落に於ける小児糸状虫病，児科誌196：747-757，（1916）
- 15) Franks, M.B. ; Chenoweth, B.M. and Stoll, N.R. : Reactions of natives of Okinawa and of American personnel, to skin tests with test antigen prepared from microfilariae of *Dirofilaria immitis*, Amer. J. Trop. Med. 27 : 617-632 (1947)
- 16) 花城清剛，城間盛吉，永山 修，上原直三：国頭村に於けるフィラリア症について，琉球衛研年報，1953（1）：13-16，（1953）
- 17) 花城清剛，城間盛吉，上原直三，永山 修：国頭村に於ける *Filaria* 症，獣畜新報146：1145（1954）
- 18) 花城清剛，城間盛吉，永山 修，上原直三：沖縄，国頭村に於ける *Filaria* 病，衛査3（5）：210（1954）
- 19) 林 滋生：人畜フィラリア症の病原虫とその疫学について，日新医学42（1）：1-12（1955）
- 20) 林 滋生：フィラリア，日本の風土病（4），自然，10（4）：32-39（1955）
- 21) Hayashi, S. : Amethematical analysis on the epidemiology of bancroftian and malayan filariasis in Japan, Jap. J. Exp. Med 32(1) : 13

フィラリア病関係文献（アルファベット順）

- 1) 相沢 龍：琉球列島の医療・保健衛生の実態第一報，琉球列島の風土，長崎大風研紀要，4（3）：209-213，（1962）
- 2) 相沢 龍：琉球列島の医療・保健衛生の実態第二報，医療の実態，長崎大風研紀要，4（3）：214-218，（1962）
- 3) 相沢 龍：琉球列島の医療・保健衛生の実態，第三報，人口動態の現況，長崎大風研紀要。
- 4) 相沢 龍：琉球列島の医療・保健衛生の実態第四報，学生・生徒の体位，長崎大風研紀要，4（3）：233-239，（1962）
- 5) 安里龍二：過去にみられた寄生虫フィラリア症，沖縄の寄生虫病，沖縄県予防課発行13，（1980）
- 6) 荒木恒治 他：1967年沖縄調査報告（第1回）113，大阪医科大学第2内科海外調査医療班発行，大阪，（1970）
- 7) 帖佐彦四郎：象皮病の予防接種報告，日内科誌1（4）：241-242，（1913）
- 8) 江島優樹：琉球列島のフィラリア病とその撲滅対策

- 43, (1962)
- 22) 林 滋生, 田中英文: フィラリア寄生コットラットにおける流血中マイクロフィラリア数と寄生雌, 成虫数との関係について, 寄生虫学雑誌別刷14(1): 15-19, (1965)
- 23) 比嘉賀善: 沖縄県下に於ける小児ふいりらあ虫伝播状況に就て(第1回), 児科誌178: 275-278, (1915)
- 24) 比嘉政昭, 宮城 健, 金城 健, 安富祖忠章, 山田ちえ子, 岸本 司, 新垣民子: 名護保健所管内におけるフィラリア対策, 第5回沖縄県公衆衛生学会記録集: 101-111, (1974)
- 25) 平田嗣純: 象皮病及Filaria虫病に関する知見補遺, 東医新誌3137: 1489-1509, (1939)
- 26) 平田嗣純: 象皮病患者に於けるフィラリア帯虫数健康者より少き理由に関する考察, 東医新誌3178: 653-654, (1940)
- 27) 平田久夫, 国吉真英, 城間盛吉, 平識善保, 片峰大助, 吉村 税: 沖縄宮古島に於けるフィラリア集団治療の経過, 寄生虫学雑誌14(4): (1965)
- 28) 平田久夫, 国吉真英, 城間盛吉, 平識善保, 片峰大助, 吉村 税: 宮古島におけるフィラリア集団治療の経過, 沖縄医学雑誌7(1): 22 (1966)
- 29) 平田久夫, 片峰大助, 国吉真英: 内皮反応からみたフィラリア集団治療の効果, 第13回日本熱帯医学会総会抄録, 熱帯7(1): (1972)
- 30) 平識善保: フィラリア集団検血用簡便染色器具の考案とその使用法, 琉球衛生研究所報1963(3): 4, (1963)
- 31) 石井信太郎: 沖縄県下のフィラリア病について, 寄記20(11): 1942, (1936)
- 32) 稲福盛輝: フィラリア調査成績, 74, 統計を主にした琉球大学健康管理白書(1950~1968), 續文堂, (1968)
- 33) 稲福盛輝: 第2章, フィラリア, 212-217, 沖縄の医学, 医学・保健統計資料編, (1979)
- 34) Iwata, S.; Araki, T.; Chuda, M.; Fujihara, T.; Ikoma, K.; Yasuhara, M. and Hashimoto, T.: Observation of Several Interest Diseases in Ie Island, Okinawa, Jap.J. Trop. Med. 10(1): 106(1969)
- 35) 片峰大助: 糸状虫症の臨床と病理(主としてバンクロフト糸状虫に於て), 81-100, 日本における寄生虫学の研究II, 森下 薫編, 医歯薬出版, 東京, (1962)
- 36) Katamine, D.: Epidemiological surveys on the intestinal parasites and filarial infection among the inhabitants of Miyako Islands, Ryukyu, Endemic Dis. Bull. (Nagasaki) 4: 166-175, (1962)
- 37) 片峰大助: 沖縄のフィラリア症(シンポジウム・医学的立場より見た沖縄), 熱帯医学会報7(1): 105, (1966)
- 38) 川島健治郎: 沖縄特に八重山群島における寄生蠕虫類の疫学(シンポジウム・医学的立場より見た沖縄), 熱帯医学会報7(1): 104 (1966)
- 39) 神田鍊蔵: 強制投与法と自然吸血法により摂取されたフィラリア幼虫の蚊体内における発育の比較, 寄生虫学雑誌12(5): 390-396, (1963)
- 40) 神田鍊蔵, 栗原 毅, 加藤勝也: 奄美・琉球よりの移住者のマイクロフィラリア保有状況とその都市における伝播の可能性について, 寄生虫雑誌13(4): 305-306, (1964)
- 41) 神田鍊蔵, 石井 明: Diethylcarbamazine 剤によるフィラリア集団治療効果の解析, 熱帯医学会報7(2): 36-43, (1966)
- 42) Kanda, T.; Sasa, M.; Kato, K. and Kawai, J.: Pilot experiments on the mass treatment of bancroftian filariasis with medicated food or drink, Jap.J.Exp. Med. 37(2): 141-147, (1967)
- 43) Kanda, T.; Tasaka, S. and Sasa, M.: The effects of diethylcarbamazine treatment on the viability of microfilaria ingested by intermediated hosts, Jap. J. Exp. Med. 37(2): 149-155, (1967)
- 44) 岸本高男, 栗国成也, 下識名和子, 比嘉ヨシ子, 平良恵貴: 宮古島におけるネックタイエカのバンクロフト糸状虫の保有率について, 沖縄生物学誌6: 13-18, (1970)
- 45) 岸本高男, 比嘉ヨシ子, 下識名和子: 沖縄産ネックタイエカに対する殺虫剤の効力比較, Biol. Mag. Okinawa. 8: 53-62, (1971)



- 46) 岸本高男, 比嘉ヨシ子, 下謝名和子, 与那原孫伝: 八重山産ネックイイエカに対する殺虫剤の効力比較, 沖縄県公害衛生研究所報 8: 68-73, (1974)
- 47) 岸本高男, 比嘉ヨシ子: 蚊の媒介する疾病, フィラリア症, そ族昆虫駆除指導書第 4 集, 沖縄の蚊, 沖縄県環境整備課発行, (1981)
- 48) 岸本 司, 新垣民子: フィラリア仔虫検出法における血液量の検討, 第 3 回 (1972) 沖縄公衆衛生学会記録集: 51-52, (1972)
- 49) 北村精一: ミクロフィラリアの定期出現性: 日本における寄生虫学の研究 II, 森下 薫編, 医歯薬出版, 東京, (1962)
- 50) 国吉真英: 宜野座村住民のフィラリア仔虫検査成績, 獣畜新報 112: 524, (1953)
- 51) 国吉真英: 沖縄に於ける寄生虫病学の文献, 1956 年度, (1957)
- 52) 国吉真英, 城間盛吉, 仲宗根榮: 沖縄本島南部地区の糸状虫症の調査成績, 琉球衛生検査学会報 1: 23-29, (1959)
- 53) 国吉真英, 城間盛吉, 仲宗根榮: 沖縄本島南部地区の糸状虫症調査成績について (第一報) (1959)
- 54) 国吉真英: 南大東島の寄生虫調査成績について, 沖縄獣医畜産研究報告 1: 1-6 (1960)
- 55) 国吉真英: 沖縄における過去 11 ヶ年のフィラリア調査成績, 琉球衛生研究所報 2: 43-53, (1961)
- 56) 国吉真英, 仲地紀良, 平識善保, 城間盛吉, 上原直三: 沖縄本島久志村の寄生虫調査成績について, 琉球衛生研究所報 3: 1-18, (1963)
- 57) 国吉真英, 平識善保, 城間盛吉, 外間善次, 大城孝喜, 徳村勝昌, 岸本高男, 仲地紀良, 屋嘉勇, 池城 毅, 多嘉良引行, 新城慶康: 具志頭村の糸状虫症について, 第 4 回無医地区巡回診療報告 (沖縄医師会・琉球新報社): 2, (1966)
- 58) 国吉真英, 城間盛吉, 平識善保: 沖縄本島 4 ヶモデル部落における糸状虫症の疫学的調査と集団駆虫成績について, 第 1 報, モデル部落における糸状虫症の疫学的調査, 第 1 回沖縄公衆衛生大会, 沖縄公衆衛生学会総会記録集: 73-78, (1970)
- 59) 国吉真英, 仲地紀良, 城間盛吉, 平識善保: 沖縄本島 4 ヶモデル部落における糸状虫症の疫学的調査と集団駆虫成績について, 第 1 回沖縄公衆衛生大会, 沖縄公衆衛生学会総会記録集: 80-92, (1970)
- 60) 国吉真英 (編): 沖縄における糸状虫症に関する文献目録 (1911年~1970年), 沖縄寄生虫予防協会, (1970)
- 61) 国吉真英 (編): 沖縄における糸状虫症の調査成績 (1949年~1969年), 沖縄寄生虫予防協会, (1970)
- 62) 国吉真英: 沖縄県下における人のフィラリア防圧の歴史的概説, 獣医畜産新報 554: 1140-1142, (1970)
- 63) 国吉真英: 沖縄県下におけるフィラリア防圧の歴史的概説, 第 2 回沖縄公衆衛生大会, 沖縄公衆衛生学会総会記録集別刷: 263-268, (1971)
- 64) 国吉真英: 沖縄県公害衛生研究所寄生虫関係業績目録, 寄生虫調査研究のあゆみ, 第 4 回沖縄県公衆衛生学会総会記録別冊: 1-8, (1973)
- 65) 国吉真英: 沖縄八重山群島黒島におけるバンクロフト糸状虫症とその集団治療後 6 年間の推移, 沖縄医学会雑誌 13: 228-231, (1976)
- 66) 国吉真英: 宮古島フィラリア調査の思い出 (昭和 52 年 6 月 26 日), (1977)
- 67) 国吉真英: フィラリア症に関する文献目録, (戦前) 1911-1929, (戦後) 1960-1980, (1980)
- 68) 松岡 功: 沖縄に於ける地方性象皮病の臨床的研究並びに統計的観察, 行刊衛生誌 11(12): 947-994, (1937)
- 69) 松川盛市: 過去 4 ヶ年間のフィラリア主要調査報告・はじめに, 村 (琉球大学農村衛生研究会会報) II: 21-33, (1963)
- 70) 松下禎二: 沖縄島の衛生学的観察, 衛生学及細菌学時報第 2 巻抜刷, 明治 38 年 8 月 2 日発行, (1905)
- 71) 松下禎二: 象皮病の原因及びフィラリア虫に関する討論追加, 日内科誌 4: 251-254, (1913)
- 72) Marshall, C.L. and Yasukawa, K.: Control of bancroftian filariasis in the Ryukyu Islands: Preliminary results of mass administration of

- diethylcarbamazine, Amer. J. Trop. Med. Hyg. 15 : 934-942, (1966)
- 73) 三浦守治, 三角恂: 八重山群島風土病研究調査報告, 東京医事新誌自892号至926号: 875-2351, (1895)
- 74) 三井源藏, フィラリア症とその集団治療—沖縄のフィラリア対策のために—, 南方同胞援護会, (1963)
- 75) 峯直次郎: 沖縄兵に於けるフィラリア伝播の状況報告, 軍医団誌12: 253, (1911)
- 76) 宮城一郎: コガタハマダラカの発生状況—沖縄県石垣島—, 公衆衛生情報 8 (5): 22-25, (1978)
- 77) 森下 薫: 日本に於ける寄生虫学発達史: 日本における寄生虫学の研究 I, 森下 薫編, 1-29, 医歯薬出版, 東京, (1961)
- 78) 守山貞一: 沖縄県在郷軍人のフィラリア帯虫者に就いて, 軍医団誌124: 622-627, (1922)
- 79) 望月代次, 笠原精一: 鹿児島県種子島及甌島並に沖縄県に於ける象皮病患者調査報告, 中外医新808: 1513-1530, (1913)
- 80) 望月代次, 笠原精一: 鹿児島県種子島及甌島並に沖縄県に於ける象皮病患者調査報告(続), 中外医事新報808: 1606-1612, (1913)
- 81) 望月代次, 笠原精一: 鹿児島県種子島及甌島並びに沖縄における象皮病原因調査報告(第10回日本内科学会総会演説), 日内科誌4: 231-237, (1913)
- 82) 名護保健所: 名護保健所管内に於けるフィラリア病検診結果(14ヶ市町村), 1969年9月~1971年6月, (1971)
- 83) 名護保健所: 名護保健所管内概況, 昭和48年, (結核・フィラリア・性病), (1973)
- 84) 仲地紀晃: フィラリア虫病に於ける血中仔虫の態度及びくさふるい発作の消長に就て, 長崎医学会雑誌7(5): 865-878, (1929)
- 85) 仲地紀晃: フィラリア虫の造抗原性に就て, 長崎医学会誌8: 101-110, (1930)
- 86) 仲地紀良, 照屋寛善, 国吉真英, 平識善保, 城間盛吉, 上原直三: 沖縄宜野座村字漠那に於けるマイクロフィラリア陽性者の集団治療について, 琉球衛生研究所報2: 54-58, (1961)
- 87) 仲地紀良他: ミクロフィラリア(バンクロフト種)陽性者に対してスミレ(Dithiaza NiNe)を使用した例, 琉球衛生研究所2: 59-60, (1961)
- 88) 西山伊織, 玉城文男, 宮城殷三: 琉球に於けるフィラリア虫病及びトリパフラヴィン療法に就きて, 東京医事誌2393: 2317, (1953)
- 89) Nihei, N.: Topography, geology and climate: Animals of medical importance in the Nansei Islands in Japan, edited by Sasa, M.; Takahashi, H.; Kano, R. and Tanaka, H., 5-7, Shinjuku Shobo, Tokyo, (1977)
- 90) 大浜信賢: 沖縄県八重山郡小平及竹富尋常高等小学校児童のFilariaの調査成績, 台湾医会誌38(11): 1625-1632, (1939)
- 91) 大浜信賢: 学校児童のフィラリア調査成績, 日学衛28(7): 445, (1940)
- 92) 大浜信賢: フィラリア仔虫の昼間検出, 台湾医会誌40(1): 147, (1941)
- 93) 大浜信賢: フィラリア仔虫の昼間検出に就いて, 台湾医会誌40(5): 941-945, (1941)
- 94) 大浜信賢: 沖縄県八重山郡白良尋常高等小学校児童のFilaria調査成績, 台湾医会誌40(6): 1164-1168, (1941)
- 95) 大浜信賢: 沖縄県宮古島に於けるBancroft糸状虫の疫学的調査成績, 熱帯医学, 台湾, 1(5): 569, (1943)
- 96) 大浜信賢: 沖縄県石垣島に於けるBancroft糸状虫病Wuchereria bancroftiの自然感染状況と部落住民の衛生状態並にFilaria感染との関係, 台湾医会誌42(3附): 1-41, (1943)
- 97) Ohyama, C.; Saito, H. and Miyasato, N.: Spontaneous remission of chyluria, J. Urol. 121: 316-317, (1979)
- 98) 岡部浩洋, 小野典雄, 白石 哲, 琉球慶良間諸島の寄生虫(第2報), 熱帯医学会報6(1): 85, (1965)
- 99) 岡元健一郎: 本邦における乳糜尿症の現況, 日本医事新報, No.2725(昭51. 7. 17日): 6-12, (1976)
- 100) 沖縄県環境保健部: 風土病対策(フィラリア), 環境保健行政の概要, (1974): 32-33, (1974)
- 101) 沖縄県環境保健部: 風土病対策, 環境保健行政

- の概要 (1979年) : 52-55, (1979)
- 102) 沖縄県環境保健部 : 風土病対策, 環境保健行政の概要 (1980年) : 52-55, (1980)
- 103) 沖縄県環境保健部予防課 : 沖縄戦後の保健所のあゆみ—保健所30周年記念誌—, (1981)
- 104) 大森南三郎 : 熱帯風土病総合調査(八重山群島)のため沖縄出張, 昭和36年10月12日—11月9日, (1961)
- 105) 大森南三郎 : 沖縄におけるフィラリア伝搬蚊について, 長大風土病紀要 3 (4) : 326, (1961)
- 106) 大森南三郎 : 宮古島におけるフィラリア浸淫と伝搬蚊について, 長大風土病紀要 4 (4) : 332, (1962)
- 107) 大森南三郎, 末永 敏, 仲地国夫 : 宮古島日小中学校生徒のフィラリア浸淫率について, 寄生虫誌11 (4) : 89, (1962)
- 108) Omori, N.; Suenaga, O. and Nakachi, K. : Epidemiology of bancroftian filariasis in Hisamatsu village, Miyako islands the Ryukyus. I. Results of a survey made in Octobfr. 1961, Endemic. Dis. Bull. (Nagasaki Univ.) 4 : 194-205, (1962)
- 109) 大森南三郎 : バンクロフト糸状虫の伝搬に関する日本産蚊族, 特にアカイエカの役割について, (1962)
- 110) 大森南三郎 : フィラリアの伝搬にかかわる日本産蚊族の役割, 第16回日本医学会総会学術講演集II : 759-776, (1963)
- 111) 大森南三郎, 末永 敏, 仲地国夫, 上原直三 : 宮古, 久松部落に於けるフィラリアの疫学調査, 寄生虫誌13 (4) : 304, (1964)
- 112) Omori, N. : On the familial infection of bancroftian filariasis due to the house mosquitoes, Endemic. Dis. Bull. Nagasaki Univ. 7(1) : 29-37, (1965)
- 113) Omori, N. ; Suenaga, O.; Uemura, S. ; Ishimine, R.; Nakachi, K. and Uehara, N. : Susceptibility of *Culex pipiens fatigans* to *Wuchereria bancrofti* in the Ryukyus, in comparison with that of *C.p.pallens* in Japan, Endemic. Dis. Bull. (Nagasaki Univ.) 7(3) : 221-229, (1965)
- 114) 大森南三郎 : 宮古島におけるネックイエカのフィラリア伝搬の疫学 (シンポジウム医学的立場より見た沖縄), 熱帯医学会報 7 (1) : 104-105, (1966)
- 115) 大森南三郎 : 日本脳炎伝搬蚊の発生状況調査のため沖縄に出張, 昭和45年5月14日—5月21日, (1970)
- 116) 大城 博 : 読谷村内におけるフィラリアの疫学, 第6回沖縄県公衆衛生学会記録集 : 91-96, (1974)
- 117) 尾辻義人, 前田 忠, 多田 功, 大嶺経勝 : 沖縄八重山群島黒島のフィラリアに関する研究 (2), 臨床的観察, 特に投薬時の副作用について, 日本熱帯医学雑誌 9 (1) : 44-45, (1967)
- 118) 黄 登雲 : 台湾万丹床及琉球嶼住民5267名の夜間検血による *Microfilaria bancrofti* の検査成績, 熱帯医学, 台湾 1 (34) : 375, (1943)
- 119) 陸軍省医務局 : 日本に於けるフィラリアの分布, 軍医団誌 (41) : 332-348, (1913)
- 120) 琉球列島米国民政府広報局出版部 : 衛研技師の発明でスピードアップされたフィラリア撲滅運動, 今日の琉球 10 (10) : 18, (1966)
- 121) 琉球政府厚生局 : 風土病, フィラリア, マラリア, 厚生白書 (社会福祉事業10周年記念号) : 126-129, (1963)
- 122) 琉球政府厚生局 : フィラリア病, 8 pp, (1965)
- 123) 琉球政府厚生局公衆衛生部 : 沖縄におけるフィラリア病防あつ概要報告書, (1972)
- 124) 琉球政府厚生局公衆衛生課 : 保健所のあゆみ (保健所10周年記念誌), (1962)
- 125) 琉球新報 : 黒島のフィラリア絶滅, 琉球新報1980年9月2日号, (1980)
- 126) 西郷親盛 : 沖縄県下に於けるフィラリア病分布状態に就て, 寄記 9 : 45, (1937)
- 127) 西郷親盛 : 沖縄県下に於けるフィラリア病に関する研究, 熊医会誌 15 (2) : 175-193, (1939)
- 128) 西郷親盛 : 沖縄県下に於けるフィラリア病に関する研究 (2) フィラリア病とマラリア虫感染との関係, 熊医会誌 16 (1) : 63-72, (1940)
- 129) 西郷親盛 : 沖縄県下におけるフィラリア病に関する研究 (3) 蚊族の分布状態及び其幼虫の生育に及ぼす県産淡水魚の害敵作用, 熊医会誌 16 (2) : 289-305, (1940)

- 130) 西郷親盛：沖縄県下に於けるフィラリア病に関する研究(4) バンクロフト糸状虫寄生の体格栄養状態に及ぼす影響, 熊医会誌16(2):307-314, (1940)
- 131) 作井憲一：乳糜尿治験例, 沖縄医学会雑誌7(1):18, (1968)
- 132) 佐々 学：日本のフィラリア症について(特にその疫学, 予防, 治療法の現状), 日本医学40(3):129-136, (1953)
- 133) 佐々 学, 林 滋生：糸状虫症(第Ⅲ編, 疫学編)：最新寄生虫病学, 森下 薫編, 1-46, 医学書院, 東京, (1953)
- 134) 佐々 学：人糸状虫症の疫学調査成績, 30年度文部省総合研究報告集録(医学及び薬学編), (1955)
- 135) 佐々 学, 佐藤孝慈, 加納六郎：本邦に於ける糸状虫浸淫状況調査, 宮古島及び石垣島, 総研医薬(29):521, (1955)
- 136) 佐々 学：1955年沖縄出張(フィラリア対策)
- 137) 佐々 学：人畜糸状虫症の実験的疫学的研究, 31年度文部省総合研究報告集録:50-51, (1956)
- 138) 佐々 学, 林 滋生：糸状虫症(フィラリア), 日本の風土病(3), 日本医師会誌37(11):681-688, (1957)
- 139) 佐々 学：糸状虫(フィラリア)：寄生虫読本, 76-80, 日本寄生虫予防会(1958)
- 140) 佐々 学, 照屋寛善, 池宮喜春, 国吉真英, 城間盛吉, 金城 進：沖縄農村の寄生虫罹患状況について, 日本医師会雑誌39(9):600-604, (1958)
- 141) 佐々 学：フィラリア症の疫学：特に日本に於ける流行相と予防対策, 主題36：寄生虫病(2) 日本住血吸虫病, フィラリア症, 日本の医学, 第15回日本医学会総会学術集会記録, (1959)
- 142) 佐々 学：フィラリア症の対策, 日本公衆衛生雑誌7(6):383-389, (1960)
- 143) 佐々 学：琉球におけるフィラリア症の駆除対策(案), 1960年19月14日, (1960)
- 144) 佐々 学：琉球列島のフィラリア病とその対策, 沖縄と小笠原(南方同胞援護会)15:39-47, (1960)
- 145) Sasa, M.; Hayashi, S. and Tanaka, H. : Experimental studies on filariasis control in Japan, Indian J. Malariol. 14(4):441-456, (1960)
- 146) 佐々 学：日本に於けるバンクロフト糸状虫症の分布, 日本に於ける寄生虫学の研究2:1-34, (1962)
- 147) 佐々 学：フィラリア病対策の意味するもの, 厚生, (1962)
- 148) 佐々 学：フィラリア症の疫学, 日本の医学2:778-783, (1963)
- 149) 佐々 学：フィラリア症の地域駆除対策, 1. とくに保虫者対策について, 公衆衛生10(6):319-327, (1963)
- 150) Sasa, M. : Pilot experiments in the control of bancroftian filariasis in Japan and Ryukyu, Bull. Wld Hlth Org. 28:437-454, (1963)
- 151) 佐々 学：寄生虫病研究における疫学的アプローチ, 最新医学19(6):1375-1384, (1964)
- 152) 佐々 学：フィラリア病について(日本および世界におけるフィラリア病問題の展望), 検疫衛生, 1-9, (1968)
- 153) 佐々 学：フィラリア病について(2), 日本および世界におけるフィラリア病問題の展望, その2. その他のフィラリア病, 検疫衛生, 50-56, (1969)
- 154) 佐々 学：大平洋学術会議, フィラリア症, 医学のあゆみ58(12):801-805, (1969)
- 155) 佐々 学：私どものフィラリア病研究のあゆみ(1), 医学のあゆみ71(5):235-238, (1969)
- 156) 佐々 学：私どものフィラリア病研究のあゆみ(2), 医学のあゆみ71(6):283-286, (1969)
- 157) 佐々 学：沖縄におけるフィラリア病予防対策の成果について, 熱帯5(2):89-97, (1970)
- 158) Sasa, M.; Kanda, T.; Mitsui, G.; Shirasaka, A.; Ishii, A. and Chinzei, H. : The filariasis control programs in Japan and their evaluation by means of epidemiological analysis of the microfilaria survey data, Recent Advances in Researches on Filariasis and Schistosomiasis in Japan, (ed. by Sasa, M.) : 3-72, Univ. Tokyo Press, (1970)
- 159) 佐々 学：フィラリア病の疫学と駆除に関する

- 最近の研究, 東京医学81 (1): 1-21, (1972)
- 160) Sasa, M. : Anti-filariasis campaign : Its history and future prospects, Progress research 18 : 259-268, (1974)
- 161) 佐々 学, 渡辺 格, 森 亘 : 医動物と風土病, Modern Medicine 6 : 19-30, (1974)
- 162) Sasa, M. : Human filariasis. A global survey of epidemiology and control, Univ. Tokyo Press, (1976)
- 163) Sasa, M. : Filariasis, Animals of medical importance in the Nansei Islands in Japan, edited by Sasa, M.; Takahashi, H.; Kano, R and Tanaka, H., 1-4, Shinjuku Shobo, Tokyo, (1977)
- 164) Sasa, M. : Filariasis, Animals of medical importance in the Nansei Islands in Japan, edited by Sasa, M.; Takahashi, H.; Kano, R. and Tanaka, H., 333-342, Shinjuku Shobo, Tokyo, (1977)
- 165) 佐藤八郎, 米沢藤士, 尾辻義人, 花城清高 : 沖縄本島三和村喜屋武地区, 読谷村高志保区, 東村平良区に於ける糸状虫症調査報告書, 琉球衛研年報1953 (1) : 17-22, (1953)
- 166) 佐藤八郎, 米沢藤士, 福島英雄, 花城清高, 政真哉 : 南九州離島並びに沖縄の糸状虫症調査(会), 寄生虫誌3 (1) : 127, (1954)
- 167) 佐藤八郎 : 奄美大島及び沖縄の糸状虫症調査(会), 鹿児島医誌27 (9/10) : 238, (1954)
- 168) 佐藤八郎, 米沢澤藤 : 糸状虫症, 臨床と研究31 (5) : 440-448, (1954)
- 169) 佐藤八郎 : 琉球のフィラリア, 治薬報526 : 19, (1955)
- 170) 佐藤八郎, 米沢藤士, 尾辻義人, 花城清高 : 沖縄のフィラリア症調査(会), 鹿児島医誌28 (1/2) : 46, (1955)
- 171) 佐藤八郎, 米沢藤士, 尾辻義人, 花城清高 : 沖縄本島, 石垣島の糸状虫症調査(会), 寄生虫誌4 (2) : 149, (1955)
- 172) 佐藤八郎, 米沢藤士, 尾辻義人, 花城清高 : フィラリア症に関する研究(第12報) 沖縄の糸状虫症調査, 鹿児島大医誌7 (2) : 290-296, (1955)
- 173) 佐藤八郎他 : 沖縄における寄生蠕虫類および糸状虫症について, 鹿児島大医誌10 (4) : 1148-1160, (1958)
- 174) 佐藤八郎 : 糸状虫症の治療, 日本における寄生虫学の研究II, 森下 薫編, 101-113, 医歯薬出版, 東京, (1962)
- 175) 佐藤八郎他 : 沖縄における腸管寄生虫ならびにフィラリア調査成績 : 熱帯医学会報4 (1), (1963)
- 176) 佐藤八郎 : 糸状虫症の集団治療, 日本における寄生虫学の研究IV, 森下 薫編, 331-338, 医歯薬出版, 東京, (1964)
- 177) 佐藤八郎 : 沖縄, 熱帯医学会報7 (1) : 81-82, (1966)
- 178) 佐藤八郎, 柚木一雄, 尾辻義人, 高木茂男, 大山治史, 与儀昌夫, 宮城善吉, 国吉真英, 平識善保 : 沖縄における無医地区の診療経験, 日本熱帯医学誌8 (1) : 45-46, (1967)
- 179) 佐藤八郎, 尾辻義人, 与那嶺和男, 安東六石, 国吉 至, 前田 忠, 貞方洋子, 原田隆二, 中島 暫 : フィラリア予防対策事業の遠隔成績, 日本熱帯医学雑誌9 (1) : 45, (1967)
- 180) 佐藤八郎, 尾辻義人 : 沖縄学術調査診療の変遷と今後の方向について, 熱帯(8) : 27-30, (1968)
- 181) 佐藤考慈, 加納六郎 : 琉球先島列島における人のフィラリア症について, 寄生虫誌4 (2) : 160, (1955)
- 182) 佐藤考慈, 林 滋生 : 八重山群島及び沖縄久米島に於ける人糸状虫症(会), 寄生虫誌5 (2) : 272, (1956)
- 183) 世嘉良直, 宮城英雄, 小渡有明, 岸本 司 : 名護保健所管内のフィラリア病防遏事業における地区組織活動について, 第3回(1972) 沖縄公衆衛生学会総会記録集, 96-103, (1972)
- 184) Simpson, T. W. : A note on filariasis among the natives of Okinawa, with particular reference to possible transmission of *Wuchereria bancrofti* by *Anopheles hyrcanus sinensis*, Am. J. Trop. Med. 31 (5) : 614-616, (1951)
- 185) 新里芳雄 : 宮古群島におけるフィラリア防遏状況について, 衛生監視員業務研究集録(琉球政

- 府厚生局公衆衛生部衛生課)(1):39-42,  
(1966)
- 186) 新里芳雄:フィラリア病防遏に関する報告,第  
4回(1973年)沖縄県公衆衛生学会記録集,150  
-154,(1973)
- 187) 城間盛吉:沖縄本島南部地区フィラリア症調査,  
衛生査5(5):212,(1956)
- 188) 末永 敏,国吉真英,岸本高男,宇良宗輝,大  
城信雄:日本復帰後の沖縄本島における犬糸状  
虫症の浸淫状況について,熱帯医学18(4):  
183-194(1976)
- 189) 砂川恵徹,大城信雄,与那覇武信,神田練蔵:  
宮古島に於けるネッタイイエカの徹夜採取,沖  
縄医学会雑誌7(1):13-14,(1968)
- 190) 砂川恵徹,砂川敬哲:宮古島に於けるフィラ  
リアの諸問題,沖縄医学会雑誌7(1):14-17,  
(1968)
- 191) 砂川恵徹,砂川敬哲:宮古のフィラリアにつ  
いて,沖縄医学会雑誌7(1):18,(1968)
- 192) 多田 功:沖縄・八重山群島と風土病,九大医  
報33(4):323-326,(1953)
- 193) 多田 功,川島健治郎:八重山群島西表島のフ  
ィラリア調査,九州大学学術探検研究会業績16  
号,(1963)
- 194) 多田 功,宮原道明:八重山群島与那国・西表  
島・鳩間島におけるフィラリア調査,九州大学  
学術探検研究会業績第38号,257-258,(1964)
- 195) 多田 功,長野耕一,今井淳一,尾辻義人,前  
田 忠,大嶺経勝:沖縄八重山群島黒島のフィ  
ラリアに関する研究(1)疫学的研究特に皮内  
反応について,日本熱帯医学雑誌9(1):43-  
44,(1967)
- 196) 多田 功,長野耕二,今井淳一,尾辻義人,前  
田 忠,吉村健清,大嶺経勝:沖縄八重山群島  
黒島におけるフィラリアの疫学的研究,鹿児島  
大学医学雑誌19(4):750-759,(1968)
- 197) 多田 功:沖縄八重山群島の寄生蠕虫相,鹿大  
医報7(1):66-71,(1968)
- 198) 多田 功:沖縄・八重山群島と風土病,九大医  
報33(4):55-58,(1968)
- 199) 多田 功,尾辻義人,原田隆二,福元弘和,三  
森龍之:沖縄黒島のバンクロフト糸状虫症集団  
治療開始後,13年間の追跡調査,第23回日本熱  
帯医学会総会講演集抄録,(1981)
- 200) 多田 功,三森龍之,尾辻義人,原田隆二,福  
元弘和:沖縄・黒島のバンクロフト糸状虫症,  
集団治療開始後13年間の追跡調査,日熱医会誌  
10(2):58-59,(1982)
- 201) 高田季久,井関基弘,宇仁茂彦,田辺和裕,佐  
野竜蔵,米本伸一,西尾恭好,田嶋 功:沖縄  
県伊計島における糞線虫およびフィラリアの調  
査,日熱医会誌2(2):88-89,(1974)
- 202) 田中英文:フィラリア実験動物としてのCotton  
Ratに関する研究1.飼育繁殖成績について,  
実験動物14(2):80-86,(1965)
- 203) 田中英文:フィラリア実験動物としてのCotton  
Ratに関する研究(3)糸状虫症化学療法の実  
験的研究特にDiethylcarbamazineの影響につ  
いて,寄生虫学雑誌14(1):1-5,(1965)
- 204) 照屋寛善:沖縄における主要感染性疾患の戦後  
における消長—沖縄の医療年表—,沖縄県公害  
衛生研究所報第9号:175-217,(1975)
- 205) 上原直三,仲地紀良,国吉真英,城間盛吉,平  
識善保:豊見城村伊良波部落におけるフィラ  
リア症調査成績について,琉球衛生研究所報3:  
22-25,(1963)
- 206) 植木弟三郎:九州師団に於けるフィラリア虫保  
有者の統計,第19回九州沖縄医学会誌,12月,  
(1914)
- 207) 八重山保健所:八重山郡島に於けるフィラリア  
防圧成績(1967~1969),(1969)
- 208) 山本 久:フィラリア症の疫学的研究(2),奄  
美大島におけるバンクロフト糸状虫の蚊体内発  
育条件に関する研究,衛生動物15(4):245-  
257,(1964)
- 209) 山本 久:フィラリア病の疫学的研究(3)  
Diethylcarbamazine投薬方法と流血中のバンク  
ロフト糸状虫マイクロフィラリア減少効果との関  
係について,寄生虫誌14(2):169-181,(1965)
- 210) 山本 久,林 滋生:Diethylcarbamazine投与  
時のバンクロフト糸状虫およびマレー糸状虫ミ  
クロフィラリア減少と発熱反応に関する解析,  
寄生虫学雑誌14(6):534-541,(1965)
- 211) 横川 定,湯本義香:沖縄県石垣島に於けるフ

フィラリア病調査成績, 台湾医会誌38(4):545-551, (1939)

212) 吉田朝啓:琉球における糸状虫症浸淫の現況, 寄生虫誌11(4):319-320, (1962)

213) 吉田朝啓:琉球に於けるフィラリア症の研究I. 浸淫の現況とその解析, 長崎大風土病紀要8(2):92-106, (1966)

214) 吉田朝啓:琉球に於けるフィラリア症の研究II. ポリビアへの沖縄移民について行ったマイクロフィラリア周期性の観察, 長崎大風土病紀要8(3):127-135, (1966)

215) 吉田朝啓, 泰川恵徹:沖縄における主要感染性疾患の戦後における消長—フィラリア—, 第16回日本熱帯医学会総会(1974)

216) 吉村欽二:Filaria性陰嚢水腫の一例, 九州沖縄医学会誌42:176, (1941)

217) 吉村良雄:山梨県下に於けるフィラリア虫の蔓延に就いて, 日内科誌4:230-231, (1913)

218) 吉永福太郎, 帖佐彦四郎:八丈島に於ける象皮病の原因について, 京都医会誌8(1):114-116, (1911)

219) 吉永福太郎, 帖佐彦四郎:象皮病予防接種法第2回報告, 京都医会誌8(附):34-36, (1911)

220) 吉永福太郎:象皮病の原因に就て, 医学中央雑誌9(21):2009-2015, (1912)

221) 吉永福太郎:熊本及兵庫の二県下に於けるふいらりあ虫及象皮病の研究, 京都医会誌9(総会演説):35, (1912)

222) 吉永福太郎:三度び象皮病の原因について, 京都医会誌9(1):116-117, (1912)

223) 吉永福太郎:熊本県天草島に於けるふいらりあ虫及象皮病の研究, 中外医新774:793-799, (1912)

224) 吉永福太郎:象皮病原因及其子防に就て, 研瑤会誌109:1-11, (1913)

225) 吉永福太郎:鹿児島県下大島, 種子島及び長崎に於けるふいらりあ虫帯者について, 日内科1(4):238-241, (1913)

226) 吉永福太郎:象皮病に就て, 研瑤会誌115:25-81, (1914)

227) 吉野高善, 仲里朝貞:沖縄県石垣島に於けるBancroft系状虫の分布並に浸淫, 台湾医会誌40(4):749-761, (1940)

228) 吉野高善:南部琉球八重山群島産蚊族のバンクロフト系状虫自然感染に関する研究, 鹿児島医誌, 29(3/4):51-70, (1956)

229) 在本地沖縄県学生会連絡会議:沖縄県屋我地村集団検診報告書, 第一報, (1968)

230) 在本地沖縄県学生会連絡会議医系分科会:沖縄県粟国村に於ける農村集団検診, 熱帯5(3):192-199, (1971)

フィラリア病関係文献(年代順)

1895

1) 三浦守治, 三角恂:八重山群島風土病研究調査報告, 東京医事新誌自892号至926号(明治28年5月18日)

1905

2) 松下禎二:沖縄島の衛生学的観察, 衛生学及細菌学時報第2巻抜刷(明治38年8月2日発行)

1911

3) 峯直次郎:沖縄兵に於けるフィラリア伝播の状況報告, 軍医団誌, 12, 253.

4) 吉永福太郎, 帖佐彦四郎:八丈島における象皮病の原因について, 京都医会誌, 8(1):114-116, 中央115:440

5) 吉永福太郎, 帖佐彦四郎:象皮病予防接種法第2回報告, 京都医会誌, 8(附):34-36

1912

6) 吉永福太郎:象皮病の原因に就て, 医学中央雑誌9(21):2009-2015

7) 吉永福太郎:熊本及兵庫の二県下に於けるふいらりあ虫及象皮病の研究, 京都医会誌, 9(総会演説):35

8) 吉永福太郎:三度び象皮病の原因について, 京都医会誌, 9(1):116-117

9) 吉永福太郎:熊本県天草島に於けるふいらりあ虫及象皮病の研究, 中外医新, (774):793-799.

1913

10) 帖佐彦四郎:象皮病の予防接種報告, 日内科誌, 1(4):241-242, 医中11上:595.

11) 松下禎二:象皮病の原因及びフィラリア虫に関する討論追加, 日内科誌, (4):251-254

12) 望月代次, 笠原精一:鹿児島県種子島及び甌島並



- に沖縄県に於ける象皮病患者調査報告, 中外医新 (808):1513-1530
- 13) 望月代次, 笠原精一: 鹿児島県種子島及甌島並に沖縄県に於ける象皮病患者調査報告(続), 中外医新 (808):1606-1612
- 14) 望月代次, 笠原精一: 鹿児島県種子島及甌島並に沖縄県における象皮病原因調査報告(第10回日本内科学会総会演説), 日内科誌, (4):231-237
- 15) 陸軍省医務局: 日本に於けるフィラリアの分布, 軍医団誌, (41):332-348
- 16) 吉村良雄: 山梨県下に於けるフィラリア虫の蔓延に就いて, 日内科誌, (4):230-231
- 17) 吉永福太郎: 象皮病原因及其子防に就いて, 研瑤会誌 (109):1-11
- 18) 吉永福太郎: 鹿児島県下, 大島・種子島及び長崎に於けるふいらりあ虫帯者について, 日内科誌 1 (4):238-241
- 1914
- 19) 植木第三郎: 九州師団に於けるフィラリア虫保有者の統計, 第19回九州沖縄医学会誌, 12月
- 20) 吉永福太郎: 象皮病について, 研瑤会誌 (115):25-81
- 1915
- 21) 藤井静英: 沖縄県下に於ける小児糸状虫症に就いて(大正4年日本小児科学会第20回総会演説抄録), 児科誌 (179):413
- 22) 藤井静英: 沖縄県下に於ける小児糸状虫病統計的並に臨床的観察(付象皮病), 児科誌 (187):1017-1074
- 23) 比嘉賀善: 沖縄県下に於ける小児ふいらりあ虫伝播状況に就いて(第1回), 児科誌 (178):275-278
- 1916
- 24) 藤井静英: 沖縄県下に於ける小児糸状虫病統計的並臨床的観察(附象皮病)(其2), 児科誌 (188):9-46
- 25) 藤井静英, 比嘉賀善: 沖縄県に於ける象皮病最小部落に於ける小児糸状虫病, 児科誌(196):747-757
- 1922
- 26) 守山貞一: 沖縄県在郷軍人のフィラリア帯虫者に就いて, 軍医団誌, 124:622-627
- 1929
- 27) 仲地紀晃: フィラリア虫病に於ける血中仔虫の態度及びくさふるい発作の消長に就いて, 長崎医学会雑誌, 7(5):865-878
- 1930
- 28) 仲地紀晃: フィラリア虫の造抗原性に就いて, 長崎医学会雑誌, 8:101-110
- 1936
- 29) 石井信太郎: 沖縄県下のフィラリア病について, 寄記, 20(11):1942
- 1937
- 30) 松岡 功: 沖縄に於ける地方性象皮病の臨床的研究並びに統計的観察, 行刑衛生誌, 11(12):947-994
- 31) 西郷親盛: 沖縄県下に於けるフィラリア病分布状態に就て, 寄記, 9:45
- 1939
- 32) 平田嗣純: 象皮病及Filaria虫病に関する知見補遺, 東医新誌, (3137):1489-1509
- 33) 大浜信賢: 沖縄県八重山郡小平及竹富尋常高等小学校児童のFilaria調査成績, 台湾医会誌, 38(11):1625-1632
- 34) 西郷親盛: 沖縄県下に於けるフィラリア病に関する研究, 熊医会誌, 15(2):175-193
- 35) 横川 定, 湯本義香: 沖縄県石垣島に於けるフィラリア病調査成績, 台湾医会誌, 38(4):545-551
- 1940
- 36) 平田嗣純: 象皮病患者に於けるフィラリア帯虫数健康者より少き理由に関する考察, 東医新誌, (3178):653-654
- 37) 大浜信賢: 学校児童のフィラリア調査成績, 日学術, 28(7):445
- 38) 西郷親盛: 沖縄県下に於けるフィラリア病に関する研究(2) フィラリア仔虫の末梢血液中出現状況並にフィラリア病とマラリア虫感染との関係, 熊医会誌, 16(1):63-72
- 39) 西郷親盛: 沖縄県下に於けるフィラリア病に関する研究(3) 蚊族の分布状態及び其幼虫の生育に及ぼす県産淡水魚の害敵作用, 熊医会誌, 16(2):289-305
- 40) 西郷親盛: 沖縄県下に於けるフィラリア病に関



- する研究 (4) バンクロフト糸状虫寄生の体格栄養状態に及ぼす影響, 熊医会誌, 16 (2): 307-314, 医中66:702
- 41) 吉野高善, 仲里朝貞: 沖縄県石垣島に於ける Bancroft 糸状虫の分布並に浸淫, 台湾医会誌, 40 (4): 749-761
- 1941
- 42) 大浜信賢: フィラリア仔虫の昼間検出, 台湾医誌, 40 (1): 147
- 43) 大浜信賢: フィラリア仔虫の昼間検出に就いて, 台湾医会誌, 40 (5): 941-945
- 44) 大浜信賢: 沖縄県八重山郡白良尋常高等小学校児童の *Filaria* の調査成績, 台湾医会誌, 40 (6): 1164-1168
- 45) 吉村欽二: *Filaria* 性陰囊水腫の一例, 九州沖縄医学会雑誌, 42: 176
- 1943
- 46) 大浜信賢: 沖縄県宮古島に於ける Bancroft 糸状虫の疫学的調査成績, 熱帯医学, 台湾, 1 (5/6): 569
- 47) 大浜信賢: 沖縄県石垣島に於ける Bancroft 糸状虫病 *Wuchereria bancrofti* の自然感染状況と部落住民の衛生状態並に *Filaria* 感染との関係, 台湾医会誌, 42 (3附): 1-41
- 48) 黄 登雲: 台湾万円床及琉球嶼住民5267名の夜間検血による *Microfilaria bancrofti* の検査成績, 熱帯医学, 台湾, 1 (34): 375
- 1947
- 49) Franks, M. B., Chenoweth, B. M and Stoll, N. R: Reactions of natives of Okinawa and of American personnel, to skin tests with test antigen prepared from microfilariae of *Dirofilaria immitis*. Amer. J. Trop. Med. 27: 617-632
- 1951
- 50) Simpson, T. W.: A note on filariasis among the natives of Okinawa, with particular reference to possible transmission of *Wuchereria bancrofti* by *Anopheles hyrcanus sinensis*. Am. J. Trop. Med. 31 (5): 614-616
- 1953
- 51) 花城清剛, 城間盛吉, 永山 修, 上原直三: 国頭村に於けるフィラリア症について, 琉球衛研年報, 1953 (1): 13-16
- 52) 国吉真英: 宜野座村住民のフィラリア仔虫検査成績, 獣畜新報, 112: 524
- 53) 西山伊織, 玉城文男, 宮地殷三: 琉球に於けるフィラリア虫病及びトリパフラヴィン療法に就きて, 東京医事誌, 2393: 2317
- 54) 佐々 学: 日本のフィラリア症について (特にその疫学, 予防, 治療法の現状), 日本医学, 40 (3): 129-136
- 55) 佐々 学, 林 滋生: 糸状虫症 (第XIII編, 疫学編), 最新寄生虫病学 (森下薫編集), 150pp 医学書院, 東京, 1-46
- 56) 佐藤八郎, 米沢藤士, 尾辻義人, 花城清高: 沖縄本島三和喜屋武地区, 読谷村高志保区, 東村平良区に於ける糸状虫症調査報告書, 琉球衛研年報, 1953 (1): 17-22
- 57) 多田 功: 沖縄・八重山群島と風土病, 九大医報33 (4): 323-326
- 1954
- 58) 花城清剛, 城間盛吉, 上原直三, 永山 修: 国頭村に於ける *Filaria* 症, 獣畜新報146: 1145
- 59) 花城清剛, 城間盛吉, 永山 修, 上原直三: 沖縄, 国頭村に於ける *Filaria* 病, 衛査3 (5): 210
- 60) 佐藤八郎: 奄美大島及び沖縄の糸状虫症調査 (会), 鹿児島医誌, 27 (9/10): 238
- 61) 佐藤八郎, 米沢藤士: 糸状虫症, 臨床と研究, 31 (5): 440-448
- 62) 佐藤八郎, 米沢藤士, 福島英雄, 花城清高, 政真 哉: 南九州離島並びに沖縄の糸状虫症調査 (会), 寄生虫誌, 3 (1): 127
- 1955
- 63) 林 滋生: 人畜フィラリア症の病原虫とその疫学について, 日新医学, 42 (1): 1-12
- 64) 林 滋生: フィラリア, 日本の風土病 (4), 自然, 10 (4): 32-39
- 65) 佐々 学: 人糸状虫症の疫学調査成績: 30年度文部省総合研究報告集録, 56 (医学及び薬学編)
- 66) 佐々 学: 1955年沖縄出張 (フィラリア対策),
- 67) 佐々 学, 佐藤孝慈, 加納六郎: 本邦に於ける糸状虫浸淫状況調査, 宮古島及び石垣島, 総研医薬, (29): 521

- 68) 佐藤八郎：琉球のフィラリア。治薬報，526：19
- 69) 佐藤八郎，米沢藤士，尾辻義人，花城清高：沖縄本島，石垣島の糸状虫症調査（会）。寄生虫誌，4（2）：149
- 70) 佐藤八郎，米沢藤士，尾辻義人，花城清高：フィラリア症に関する研究（第12報），沖縄の糸状虫症調査。鹿児島大医誌7（2）：290-296
- 71) 佐藤八郎，米沢藤士，尾辻義人，花城清高：沖縄のフィラリア症調査（会）。鹿児島大医誌，28（1/2）：46
- 72) 佐藤考慈，加納六郎：琉球先島列島における人のフィラリア症について。寄生虫誌，4（2）：160
- 1956
- 73) 福嶺紀二，加納六郎，熊田信夫，金子清俊，久郷，山本 久，田中康一：琉球宮古島の医動物学的調査，予報，お茶の水医学雑誌，4（6）：852-853
- 74) 佐々 学：人畜糸状虫症の実験的疫学的研究，31年度文部省総合研究報告集録，50-51
- 75) 佐藤孝慈，林 滋生：八重山群島及び沖縄久米島に於ける人糸状虫症（会）。寄生虫誌，5（2）：272
- 76) 城間盛吉：沖縄本島南部地区フィラリア症調査。衛生，5（5）：212
- 77) 吉野高善：南部琉球八重山群島産蚊族のバンクロフト糸状虫自然感染に関する研究。鹿児島医誌，29（3/4）：51-70
- 1957
- 78) 国吉真英：沖縄に於ける寄生虫病学の文献（1956年度）。
- 79) 佐々 学，林 滋生：糸状虫症（フィラリア症），日本の風土病（3）。日本医師会誌，37（11）：681-688
- 1958
- 80) 佐々 学：糸状虫（フィラリア）。寄生虫読本，p76-80，日本寄生虫予防会，154pp
- 81) 佐々 学，照屋寛善，池宮喜春，国吉真英，城間盛吉，金城 進：沖縄農村の寄生虫罹患状況について。日本医師会雑誌，39（9）：600-604
- 82) 佐藤八郎他：沖縄における寄生蠕虫類及び糸状虫症について。鹿児島大医誌，10（4）：1148-1160
- 1959
- 83) 国吉真英，城間盛吉，仲宗根栄：沖縄本島南部地区の糸状虫症の調査成績。琉球衛生検査学会報1959年，1：23-28
- 84) 国吉真英，城間盛吉，仲宗根栄：沖縄本島南部地区糸状虫症調査成績について（第一報）。
- 85) 佐々 学：フィラリア症の疫学：特に日本に於ける流行相と予防対策，主題36：寄生虫病（2）日本住血吸虫症，フィラリア症，日本の医学の1959年，第15回日本医学会総会学術集会記録
- 1960
- 86) 国吉真英：南大東島 寄生虫調査成績について，沖縄獣医畜産研究報告1：1-6
- 87) 佐々 学：フィラリア症の対策，日本公衆衛生雑誌7（6）：383-389
- 88) 佐々 学：琉球におけるフィラリア症の駆除対策（案）。
- 89) 佐々 学：琉球列島のフィラリア病とその対策，沖縄と小笠原15：39-47（南方同胞援護会）
- 90) Sasa, M.; Hayashi, S. and Tanaka, H. : Experimental studies on filariasis control in Japan, Indian J. Malariol. 14 (4) : 441-456
- 1961
- 91) 国吉真英：沖縄における過去11ヶ年のフィラリア調査成績，琉球衛生研究所報3：1-18
- 92) 森下 薫：日本に於ける寄生虫学発達史：日本における寄生虫学の研究I，森下薫編，1-29，医歯薬出版，東京
- 93) 仲地紀良，照屋寛善，国吉真英，平識善保，城間盛吉，上原直三：沖縄宜野座村字漢那に於けるマイクロフィラリア陽性者の集団治療について，琉球衛生研究所報，2：54-58
- 94) 仲地紀良の他：マイクロフィラリア（バンクロフト種）陽性者に対してスミレ（Dithiaza NiNe）を使用した例，琉球衛生研究所報2：59-60
- 95) 大森南三郎：熱帯病風土病総合調査（八重山群島）のため沖縄へ出張，昭和36年10月12日-11月9日
- 96) 大森南三郎：沖縄におけるフィラリア伝搬蚊について，長崎大風土病紀要3（4）：326
- 1962

- 97) 相沢 龍：琉球列島の医療・保健衛生の実態，第 1 報，琉球列島の風土，長崎大風研紀要 4 (3)：209-213
- 98) 相沢 龍：琉球列島の医療・保健衛生の実態，第 2 報，医療の実態，長崎大風研紀要 4 (3)：214-218
- 99) 相沢 龍：琉球列島の医療・保健衛生の実態，第 3 報，人口動態の現況，長崎大風研紀要 4 (3)：219-232
- 100) 相沢 龍：琉球列島の医療・保健衛生の実態，第 4 報，学生・生徒の休位，長崎大風研紀要 4 (3)：233-239
- 101) Hayashi, S. : A mathematical analysis on the epidemiology of bancroftian and malayan filariasis in Japan, *Jap. J. Exp. Med.* 32 (1) : 13-43
- 102) 片峰大助：糸状虫症の臨床と病理（主としてバンクロフト糸状虫に於て）：日本における寄生虫学の研究 II，森下 薫編，81-100，医歯薬出版，東京
- 103) Katamine, D. : Epidemiological surveys on the intestinal parasites and filarial infection among the inhabitants of Miyako Islands, Ryukyu, *Endemic Dis. Bull. (Nagasaki)* 4 : 166-175
- 104) 北村精一：ミクロフィラリアの定期出現性：日本における寄生虫学の研究 II，森下 薫編，67-80，医歯薬出版，東京
- 105) 大森南三郎：宮古島におけるフィラリアの浸淫と伝搬蚊について，長崎大風土病紀要 4 (4)：332
- 106) 大森南三郎，末永 敏，仲地国夫：宮古島小、中学校生徒のフィラリア浸淫率について，寄生虫誌 11 (4)：89
- 107) Omori, N.; Suenaga, O. and Nakachi, K. : \* Epidemiology of bancroftian filariasis in Hisamatsu village, Miyako island the Ryukyus. I. Results of a survey made in October, 1961., *Endemic Dis. Bull. (Nagasaki Univ.)* 4 : 194-205
- 108) 大森南三郎：バンクロフト糸状虫症の伝搬に関する日本産蚊族，特にアカイエカの役割について，日本に於ける寄生虫学の研究第 2 巻別刷
- 109) 琉球政府厚生局公衆衛生課，保健所のあゆみ（保健所 10 周年記念誌）
- 110) 佐々 学：フィラリア病対策の意味するもの，厚生
- 111) 佐々 学：日本におけるバンクロフト糸状虫症の分布，日本に於ける寄生虫学の研究 2：1-34
- 112) 佐藤八郎：糸状虫症の治療：日本における寄生虫学の研究 II，森下 薫編，101-113 医歯薬出版，東京
- 113) 吉田朝啓：琉球における糸状虫症浸淫の現況，寄生虫誌 11 (4)：319-320
- 1963
- 114) 平識善保：フィラリア集団検血用簡便染色器具の考案とその使用法，琉球衛生研究所報 (3)：4
- 115) 神田鍊蔵：強制投与法と自然吸血法により摂取されたフィラリア幼虫の蚊体内における発育の比較，寄生虫学雑誌 12 (5)：390-396
- 116) 国吉真英，仲地紀良，平識善保，城間盛吉，上原直三：沖縄本島久志村の寄生虫調査成績について，琉球衛生研究所等 (3)：1-18
- 117) 松川盛市：過去 4 ヶ年間のフィラリア主要調査報告・はじめに，村（琉球大学農村衛生研究会会報）II：21-33
- 118) 三井源蔵：フィラリア症とその集団治療—沖縄のフィラリア対策のために—，南方同胞援護会
- 119) 大森南三郎：フィラリア伝搬にかかわる日本産蚊族の役割，第 16 回日本医学会総会学術講演集 II：759-776
- 120) 琉球政府厚生局：風土病，フィラリア，マラリア，厚生白書（社会福祉事業 10 周年記念号）：126-129
- 121) 佐々 学：フィラリア症の疫学，日本の医学 2：778-783
- 122) 佐々 学：フィラリア症の地域駆除対策 1. とくに保虫者対策について，公衆衛生 10 (6)：319-327
- 123) Sasa, M. : Pilot experiments in the control of bancroftian filariasis in Japan and Ryukyu, *Bull. Wld. Hlth Org.* 28 : 437-454
- 124) 佐藤八郎他：沖縄における腸管寄生虫ならびに

- フィラリア調査成績, 熱帯医学会報4(1):
- 125) 多田 功, 川島健治郎: 八重山群島西表島のフィラリア調査, 九州大学学術探検研究会業績16号
- 126) 上原直三, 仲地紀良, 国吉真英, 城間盛吉, 平識善保: 豊見城村伊良波部落におけるフィラリア症調査成績について, 琉球衛生研究報(3): 22-25
- 1964
- 127) 神田鍊蔵, 栗原 毅, 加藤勝也: 奄美・琉球よりの移住者のマイクロフィラリア保有状況とその都市における伝播の可能性について, 寄生虫誌13(4): 305-306
- 128) 大森南三郎, 末永 敏, 仲地国夫, 上原直三: 宮古, 久松部落に於けるフィラリアの疫学調査, 寄生虫誌13(4): 304
- 129) 佐々 学: 寄生虫病研究における疫学的アプローチ, 最新医学19(6): 1375-1384
- 130) 佐藤八郎: 糸状虫症の集団治療: 日本における寄生虫学の研究IV, 森下 薫編, 331-338, 医歯薬出版, 東京
- 131) 多田 功, 宮原道明: 八重山群島与那国・西表島・鳩間島におけるフィラリア調査, 九州大学学術探検研究会業績, 第38号
- 132) 山本 久: フィラリア症の疫学的研究(2), 奄美大島におけるバンクロフト糸状虫の蚊体内発育条件に関する研究, 衛生動物15(4): 245-257
- 1965
- 133) 林 滋生, 田中英文: フィラリア寄生コックラットにおける流血中マイクロフィラリア数と寄生雌成虫数との関係について, 寄生虫学雑誌別刷14(1): 15-19
- 134) 平田久夫, 国吉真英, 城間盛吉, 平識善保, 片峰大助, 吉村 税: 沖縄宮古島に於けるフィラリア集団治療の経過, 寄生虫学雑誌14(4):
- 135) 岡部浩洋, 小野典雄, 白石 哲: 琉球慶良間諸島の寄生虫(第2報), 熱帯医学会報6(1): 85
- 136) Omori, N.: On the familial infection of bancroftian filariasis due to the houses mosquitoes, *Endemic Dis. Bull. (Nagasaki Univ.)* 7(1): 29-37
- 137) Omori, N.; Suenaga, O.; Uemura, S.; Ishimine, R.; Nakachi, K. and Uehara, N.: Susceptibility of *Culex pipiens fatigans* to *Wuchereria bancrofti* in the Ryukyus, in comparison with that of *C. p. pallens* in Japan, *Endemic Dis. Bull. (Nagasaki Univ.)* 7(3): 221-229
- 138) 琉球政府厚生局: フィラリア病
- 139) 田中英文: フィラリア実験動物としてのCotton Ratに関する研究, 1. 飼育繁殖成績について, 実験動物14(2): 80-86
- 140) 田中英文: フィラリア実験動物としてのCotton Ratに関する研究, 3. 糸状虫症化学療法の実験的研究特にDienthylcarbamazineの影響について, 寄生虫学雑誌別刷14(1): 1-5
- 141) 山本 久: フィラリア病の疫学的研究(3) Diethylcarbamazine 投薬方法と流血中のバンクロフト糸状虫マイクロフィラリア減少効果との関係について, 寄生虫誌14(2): 169-181
- 142) 山本 久, 林 滋生: Diethylcarbamazine 投与時のバンクロフト糸状虫およびマレー糸状虫マイクロフィラリア減少と発熱反応に関する解析, 寄生虫学雑誌別刷14(6): 534-541
- 1966
- 143) 平田久夫, 国吉真英, 城間盛吉, 平識善保, 片峰大助, 吉村 税: 宮古島におけるフィラリア集団治療の経過, 沖縄医学会雑誌7(1): 22
- 144) 片峰大助: 沖縄のフィラリア症(シンポジウム医学的立場より見た沖縄), 熱帯医学会報7: 105
- 145) 川島健治郎: 沖縄特に八重山群島における寄生蠕虫類の疫学(シンポジウム・医学的立場より見た沖縄), 熱帯医学会報7(1): 104
- 146) 神田鍊蔵, 石井 明: Diethylcarbamazine 剤によるフィラリア集団治療効果の解析, 熱帯医学会報7(2): 36-43
- 147) 国吉真英, 平識善保, 城間盛吉, 外間善次, 大城孝喜, 徳村勝昌, 岸本高男, 仲地紀良, 屋嘉勇, 池城 毅, 多嘉良引行, 新城慶康: 具志頭村の糸状虫症について, 第4回無医地区巡回診療報告(沖縄医師会・琉球新報社)
- 148) Marshall, C. L. and Yasukawa, K.: Control of bancroftian filariasis in the Ryukyu Islands: Preriminary results of mass administration of

- diethylcarbamazine, Amer. J. Trop. Med. Hyg. 15 : 934-942
- 149) 大森南三郎：宮古島におけるネッタイエカのフィラリア伝搬の疫学（シンポジウム・医学的立場より見た沖縄），熱帯医学会報，7（1）104-105
- 150) 琉球列島米国民政府報局出版部：衛研技師の発明でスピードアップされたフィラリア撲滅運動今日の琉球10（10）：18
- 151) 佐藤八郎：沖縄，熱帯医学会報7（1）：81-82
- 152) 新里芳雄：宮古群島におけるフィラリア防退状況について，衛生監視員業務研究録（琉球政府厚生局公衆衛生局公衆衛生部衛生課）（1）：39-42
- 153) 吉田朝啓：琉球に於けるフィラリア症の研究，I 浸淫の現況とその解析，長崎大風土病紀要8（2）：92-106
- 154) 吉田朝啓：琉球に於けるフィラリア症の研究，II ポリビアへの沖縄移民について行ったマイクロフィラリア周期性の観察，長崎大風土病紀要8（3）：127-135
- 1967
- 155) Kanda, T.; Tasaka, S. and Sasa, M. : The effects of diethylcarbamazine treatment on the viability of microfilariae ingested by intermediated hosts, Jap. J. Exp. Med. 37 (2) : 149-155
- 156) Kanda, T. ; Sasa, M. ; Kato, K. and Kawai, J. : Pilot experiments on the mass treatment of bancroftian filariasis with medicated food or drink, Jap. J. Exp. Med. 37 (2) : 141-147
- 157) 尾辻義人，前田 忠，多田 功，大嶺経勝：沖縄八重山群島黒島のフィラリアに関する研究（2）：臨床的観察，特に投薬時の副作用について，第9回日本熱帯医学会総会，日本熱帯医学雑誌9（1）：44-45
- 158) 佐藤八郎，柚木一雄，尾辻義人，高木茂男，大山治史，与儀昌夫，宮城普吉，国吉真英，平識善保：沖縄における無医地区の診療経験，日本熱帯医学誌8（1）：45-46
- 159) 佐藤八郎，尾辻義人，与那嶺和男，安東六石，国吉 至，前田 忠，貞方洋子，原田隆二，中島 暫：フィラリア予防対策事業の遠隔成績，第9回日本熱帯医学会総会，日本熱帯医学雑誌9（1）：45
- 160) 多田 功，長野耕一，今井淳一，尾辻義人，前田 忠，大嶺経勝：沖縄八重山群島黒島のフィラリアに関する研究（1），疫学的研究，特に皮内反応について，第9回日本熱帯医学会総会日本熱帯医学雑誌9（1）：43-44
- 1968
- 161) 稲福盛輝：フィラリア調査成績：統計を主にした琉球大学健康管理白書（1950-1968），74，績文堂
- 162) 作井憲一：乳糜尿治験例，沖縄医学会雑誌7（1）：18
- 163) 佐々 学：フィラリア病について（日本および世界におけるフィラリア病問題の展望），検疫衛生，1-9
- 164) 佐藤八郎，尾辻義人：沖縄学術調査診療の変遷と今後の方向について，熱帯（8）：27-30
- 165) 砂川恵徹，大城信雄，与那覇武信，神田練蔵：宮古島に於けるネッタイエカの徹夜採取，沖縄医学会雑誌7（1）：13-14
- 166) 砂川恵徹，砂川敬哲：宮古島に於けるフィラリアの諸問題，沖縄医学会雑誌7（1）：14-17
- 167) 砂川恵徹，砂川敬哲：宮古のフィラリアについて，沖縄医学会雑誌7（1）：18
- 168) 多田 功，長野耕二，今井淳一，尾辻義人，前田 忠，吉村健清，大嶺経勝：沖縄八重山群島黒島におけるフィラリアの疫学的研究，鹿児島大学医学雑誌19（4）：750-759
- 169) 多田 功：沖縄八重山群島の寄生蠕虫相，鹿大医報7（1）：66-71
- 170) 多田 功：沖縄・八島山群島と風土病，九大医報33（4）：55-58
- 171) 在本土沖縄県学生会連絡会議：沖縄県屋我地村集団検診報告書，第1報，1968年，14-17
- 1969
- 172) Iwata, S. ; Araki, T. ; Chuda, M. ; Fujihara, T. ; Ikoma, K. ; Yasuhara, M. and Hashimoto, T. : Observation of Several Interest Diseases in Ie Island, Okinawa, Jap. J. Trop. Med. 10

- (1) : 106
- 173) 在々 学：フィラリア病について(2), 日本および世界におけるフィラリア病問題の展望, その2, その他のフィラリア病, 検疫衛生, 50-56
- 174) 佐々 学：私どものフィラリア病研究のあゆみ(1), 医学のあゆみ71(5): 235-238
- 175) 佐々 学：私どものフィラリア病研究のあゆみ(2), 医学のあゆみ71(6): 283-286
- 176) 佐々 学：大平洋学術会議, フィラリア症, 医学のあゆみ58(12): 801-805
- 177) 八重山保健所：八重山群島に於けるフィラリア防圧成績(1967~1969)
- 1970
- 178) 荒木恒治他：1967年沖縄調査報告(第1回), 大阪医科大学第2内科海外調査医療班発行, 大阪
- 179) 岸本高男, 栗国成也, 下謝名和子, 比嘉ヨシ子, 平良恵貴：宮古島におけるネッタイエカのバンクロフト糸状虫の保有率について, 沖縄生物学誌6: 13-18
- 180) 国吉真英, 城間盛吉, 平識善保：沖縄本島4ヶモデル部落における糸状虫症の疫学的調査と集団駆虫成績について, 第1報, モデル部落における糸状虫症の疫学的調査, 第1回(1970年) 沖縄公衆衛生大会, 沖縄公衆衛生学会総会記録集, 73-78
- 181) 国吉真英, 仲地紀良, 城間盛吉, 平識善保：沖縄本島4ヶモデル部落における糸状虫症の疫学的調査と集団駆虫成績について, 第1回(1970年) 沖縄公衆衛生大会, 沖縄公衆衛生学会総会記録集, 80-92
- 182) 国吉真英(編)：沖縄における糸状虫症に関する文献目録(1911年~1970年), 沖縄寄生虫予防協会
- 183) 国吉真英(編)：沖縄における糸状虫症の調査成績(1949年~1969年), 沖縄寄生虫予防協会
- 184) 大森南三郎：日本脳炎伝搬蚊の発生状況調査のため沖縄に出張(昭和45年5月14日~5月21日)
- 185) 佐々 学：沖縄におけるフィラリア病予防対策の成果について, 熱帯5(2): 89-97
- 186) Sasa, M.; Kanda, T.; Mitsui, G.; Shirasaka, A.; Ishii, A. and Chinzei, H.: The filariasis control programs in Japan and their evaluation by means of epidemiological analysis of the microfilaria survey data: Recent Advances in Reseaches on Filariasis and Schistosomiasis in Japan, (ed. by Sasa, M.), 3-72 Univ. Tokyo Press.
- 1971
- 187) 岸本高男, 比嘉ヨシ子, 下識名和子：沖縄産ネッタイエカに対する殺虫剤の効力比較, Biol. Mag. Okinawa 8: 53-62
- 188) 国吉真英：沖縄県下におけるフィラリア防圧の歴史的概説, 獣医畜産新報554: 1140-1142
- 189) 国吉真英：沖縄県下におけるフィラリア防圧の歴史的概観, 第2回沖縄公衆衛生学会総会記録集別刷1971年2月26日, 27日: 263-268
- 190) 名護保健所：名護保健所管内に於けるフィラリア病検診結果(14ヶ市町村)1960年9月~1971年6月
- 191) 在本土沖縄学生会連絡会議医系分科会：沖縄県栗国村に於ける農村集団検診, 熱帯5(3): 192-199
- 1972
- 192) 平田久夫, 片峰大助, 国吉真英：内皮反応からみたフィラリア集団治療の効果, 第13回日本熱帯医学会総会抄録, 熱帯, 1972年7(1)
- 193) 岸本 司, 新垣民子：フィラリア仔虫検出法における血液量の検討, 第3回(1972年) 沖縄公衆衛生学会記録集: 51-52
- 194) 琉球政府厚生局公衆衛生部：沖縄におけるフィラリア病防あつ概要報告書
- 195) 佐々 学：フィラリア病の疫学と駆除に関する最近の研究, 東京医学81(1): 1-21
- 196) 世嘉良直, 宮城英雄, 小渡有明, 岸本 司：名護保健所管内のフィラリア病防あつ事業における地区組織活動について, 第3回(1972年) 沖縄公衆衛生学会総会記録集: 96-103
- 1973
- 197) 国吉真英：沖縄県公害・衛生研究所寄生虫関係業績目録, 寄生虫調査研究のあゆみ, 第4回沖縄県公衆衛生学会総会記録別冊(1973年2月22日, 23日): 1-8
- 198) 名護保健所：名護保健所管内概況(昭和48年), 結核・フィラリア・性病

- 199) 新里芳雄：フィラリア病防あつに関する報告，第4回（1973年）沖縄県公衆衛生学会記録集：150-154
- 1974
- 200) 比嘉政昭，宮城 健，金城 健，安富祖忠章，山田ちえ子，岸本 司，新垣民子：名護保健所管内におけるフィラリア対策，第5回（1974年）沖縄県公衆衛生学会記録集：101-111
- 201) 岸本高男，比嘉ヨシ子，下識名和子，与那原孫伝：八重山産ネッタイエカに対する殺虫剤の効力比較，沖縄県公害衛研所報（8）：68-73
- 202) 沖縄県環境保健部：風土病対策（フィラリア），環境保健行政の概要（1974年）：32-33
- 203) 大城 博：読谷村内におけるフィラリアの疫学，第6回沖縄県公衆衛生学会記録集：91-96
- 204) Sasa, M. : Anti-filariasis campaign : Its history and future prospects, Progress research 18 : 259-268
- 205 佐々 学，渡辺 格，森 亘：医動物と風土病，Modern Medicine 6 : 19-30
- 206) 高田季久，井関基弘，宇仁茂彦，田辺和裕，佐野竜藏，米本伸一，西尾恭好，田嶋 功：沖縄県伊計島における糞線虫およびフィラリアの調査，日熱医学会誌2（2）：88-89
- 207) 吉田朝啓，泰川恵徹：沖縄における主要感染性疾患の戦後における消長—フィラリア—，第16回日本熱帯医学会総会
- 1975
- 208) 福島英雄：フィラリア症：新内科学大系第55巻（感染症Ⅳ），吉利 和也監修，325-364，中山書店，東京
- 209) 照屋寛善：沖縄における主要感染性疾患の戦後における消長—沖縄の医療年表—，沖縄県公害衛生研究所報（9）：175-217
- 1976
- 210) 国吉真英：沖縄八重山群島黒島におけるバンクロフト糸状虫症とその集団治療後6年間の推移，沖縄医学会雑誌13：228-231
- 211) 岡本健一郎：本邦における乳糜尿症の現況，日本医事新報No.2725（昭51. 7. 17日）：6-12
- 212) Sasa, M.; Human filariasis. A global survey of epidemiology and control, Univ. Tokyo Press, Tokyo
- 213) 末永 敏，国吉真英，岸本高男，宇良宗輝，大城信雄：日本復帰後の沖縄本島における糸状虫症の浸淫状況について，熱帯医学18（4）：183-194
- 1977
- 214) 国吉真英：宮古島フィラリア調査の思い出（昭和52年6月26日）
- 215) Nihei, N. : Topography, geology and climate : Animals of medical importance in the Nansei Islands in Japan, edited by Sasa, M. ; Takahashi, H.; Kano, R. and Tanaka, H., 5-7, Shinjuku Shobo, Tokyo
- 216) Sasa, M. : A general review : Animals of medical importance in the Nansei Island in Japan, edited by Sasa, M. ; Takahashi, H. ; Kano, R. and Tanaka, H., 1-4, Shinjuku Shobo, Tokyo
- 217) Sasa, M. : Filarjasis, Animals of medical importance in the Nansei Islands in Japbn, edited by Sasa, M. ; Takahashi, H. ; Kano, R. and Tanaka, H., 33-342, Shinjuku Shobo, Tokyo
- 1978
- 218) 宮城一郎：コガタハマグラカの発生状況—沖縄県石垣島—，公衆衛生情報8（5）：22-25
- 1979
- 219) 稲福盛輝：沖縄の医学〈医学・保健統計資料編〉第2章，フィラリア，212-217
- 220) Ohyama, C. ; Saito, H. and Miyasato, N. : Spontaneous remission of chyluria, J. Urol. 121 : 316-317
- 221) 沖縄県環境保健部：風土病対策，環境保健行政の概要（1979年）：52-55
- 1980
- 222) 安里龍二：過去に見られた寄生虫フィラリア症，沖縄の寄生虫病，沖縄県予防課発行
- 223) 国吉真英：フィラリア症に関する文献目録（戦前）1911-1929，（戦後）1960-1980
- 224) 沖縄県環境保健部：風土病対策，環境保健行政の概要1980年（昭和55年），52-55
- 225) 琉球新報：黒島のフィラリア絶滅，琉球新報1980

年9月2日号

1981

- 226) 岸本高男, 比嘉ヨシ子: 蚊の媒介する疾病, フィラリア症, そ族昆虫駆除指導書第4集, 沖縄の蚊, 沖縄県環境整備課発行
- 227) 沖縄県環境保健部予防課: 沖縄戦後の保健所のあゆみ—保健所30周年記念誌—
- 228) 多田 功, 尾辻義人, 原田隆二, 福元弘和, 三森龍之: 沖縄黒島のバンクロフト糸状虫症集団

治療開始後, 13年間の追跡調査, 第23回日本熱帯医学会講演集抄録

1982

- 229) 江下優樹: 琉球列島のフィラリア病とその撲滅対策の史的考察, 環境衛生29(3):14-22
- 230) 多田 功, 三森龍之, 尾辻義人, 原田隆二, 福元弘和: 沖縄・黒島のバンクロフト糸状虫症: 集団治療開始後13年間の追跡調査, 日熱帯会誌10(2):58-59